

248名
完走第四回
元旦マラソン

第四回目を迎えた元旦マラソンは、昨年発足した体育協会主催、みんなで走ろう会主管、公民館後援で開催され、二八四名の老若男女の皆さんから参加をいただきました。会場の中学校はカラフルなジョギングスタイルの選手が整列する中、開会式が行なわれ、主催側のあいさつが始まると、小学生二名が力強く選手宣誓、その後準備体操で開会式を終了しました。

コースは、2kmと4kmがあり、2kmのコースは親子や、ゆっくりとジョギングを親しむ方々のコースで皆さん楽しもうとに走っておられました。参加者全員完走し、完走証と参加賞が渡され無事終了いたしました。

この大会の開催に協力下さいました交通安全指導員、みんなで走ろう会、社会体育指導員及び推進委員のみなさん本当にありがとうございました。厚く感謝申し上げます。

新潟県を代表するコシヒカリの食味については今さら説明するまでもないが、農家にとってはこれ程作りにくく稻穀の栽培が大変な年でもあります。月潟村農業振興協議会ではコシヒカリの栽培技術の向上と、生産の安定を図るために、昭和五十七年度より全集落にコシヒカリ圃地を設置してきました。この間二カ年の取り組み状況や、成果を紹介してみよう。

坪刈り成績

	坪刈り平均収量	最高	最低	差
S 57	kg 572	kg 670	kg 411	kg 259
S 58	kg 554	kg 640	kg 435	kg 205



各集落の生産部を中心に、圃場をもうけ、生育、収量、稲株の分解調査を実施し、稻作指導会等に役立てている。又、土壤別に砂質地帯、粘土質地帯に分け、作業体系、水管管理、施肥体系等の栽培規定を作り栽培技術の統一をかっている。稻作指導会はコシヒカリ団地を中心に育苗指導から収穫までを中心に育苗指導から収穫までを

本件は社会厚生常任委員会による閉会中の継続審査となりました。

○請願二号 昭和五九年度厚生省概算要求による「医療保険制度改正案」の反対に関する請願(内容省略)

本件は当村と潟東村の境界を変更しようとするもので、昭和三八年二月に議決されました。が、手続きが不備であったため、今回改めて議決させたものです。

(認定 全会一致)
○議案第五五号 月潟村公営の立会演説会の開催に関する条例を廃止する条例

公職選挙法が改正され、立会演説会に関する部分が削除になつたため廃止するものでした。

(原案可決 全会一致)
○議案第五七号 字の区域の変更について

これは村の境界変更によって当村へ編入される土地について字の名称を変更するものです。

(原案可決 全会一致)
○議案第五六号 村の境界変更について

○潟東村へ編入する土地 字上新田一ほか

○潟東村へ編入する土地 字上新田一ほか

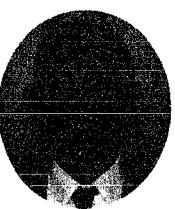
の方等の老人医療を経理するためのもので、本年度は昭和五八年二月の一ヶ月分のもので、歳入は一六〇万七千円で支払基金交付金七八二万八千元、国庫支出金三一二万二千元、一般会計繰入金六五万七千円となっています。歳出は八六四万三千円で全額が医療費として支出されました。

(原案可決 全会一致)
○請願二号 昭和五九年度厚生省概算要求による「医療保険制度改正案」の反対に関する請願(内容省略)

当委員の選舉については先の第五回臨時会で行ないましたが、補充員當選人から承諾が得られなかつたため、再度選舉されたものです。(指名推選)

補充員當選人

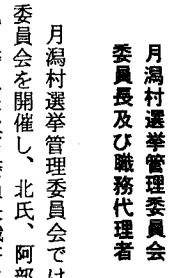
五十嵐 勇殿(月潟)



佐藤徳松氏
(知識代表)



鏡栄作氏
(教育委員)



阿部善太郎氏
を選任

大正元年九月二十六日生
(七十一才)
村議會議員 六期
元教育委員 現土地改良区理事長
現在監査委員 五期
月潟村大字西萱場二〇四

大正七年八月二十一日生
(六十五才)
村議會議員 一期
現在教育委員 二期
月潟村大字大別当四二九

月潟村選舉管理委員会
委員長及び職務代理者
月潟村選舉管理委員会では、
委員会を開催し、北氏、阿部氏を委員長及び委員長職務代理者に選任しました。

第一分団に積載車を配備
月潟村消防団第一分団第二部
(月潟下)に小型動力ポンプ
積載車が配備されました。
これで月潟村消防団八部
べてに積載車が配備され、火災現場への迅速な出動ができる初期消火に威力を發揮するものと期待されています。



委員長職務代理者 阿部善太郎氏
氏 68才

補充員當選人

五十嵐 勇殿(月潟)

銘柄米の安定生産をめざして
コシヒカリ団地の取り組み

まで各集落別に時期々々に実施してきた。

二、成 果

コシヒカリ団地を設置して二年目ということで、目に見えた成果は現われていないが、坪刈り成績を見ると収量は五十八年は前年より落ちこんだが、最高と最低の差が二五九kgから二〇五kgにちぢまり栽培技術の底上げがなされてきたものと思われる。

これまでのコシヒカリ団地の成果を踏え、一步づつこれらの問題点を克服して生産者に喜ばれるよう銘柄米の安定生産をめざして今後とも細かな指導が必要であろう。